

## 第三者意見



SGS ジャパン株式会社  
サステナビリティサービス部  
主任検証人 都倉 知宏

日立電線グループのCSR報告書2012は、貴社に関わりの深いステークホルダー(顧客、取引先、投資家、従業員、地域社会)にとって高い関心を示すと思われる主題について網羅的に報告されており、報告内容が比較しやすいよう、前年以前の報告書を参考に、構成や主題選定にも配慮されていました。ステークホルダーを重視した報告書として評価いたします。今後のさらなる改善として、経年比較は複数年度の報告書に目を通さず単年度の報告書で可能となるよう、検討されることを期待いたします。また、変化するステークホルダーのニーズや期待を適宜反映させることで、さらに充実した報告書になると思います。ステークホルダーからのフィードバックはアンケート以外にも地域交流やIR活動など、様々な形で実施されている双方向コミュニケーションにて得ることができます。このダイアログで得られた情報を報告書に反映させることは、よりステークホルダーのニーズにあった報告へとつながります。ステークホルダーにとっても貴社に伝えたニーズや期待への対応が報告されていれば、貴社への信頼度も上がるものと考えます。ステークホルダーとの定期的なコミュニケーションの実施と、そこから得られた情報の報告書への反映といった、一連のプロセスに基づいた報告を期待いたします。

環境への取り組みは、国内事業所のみならず海外事業所のパフォーマンスデータも把握可能な範囲で情報開示されていました。貴社は海外売上が3割、従業員比率も海外が5割を超えており、この影響を考慮されたの情報開示として評価できます。他方、海外事業所での社会面の取り組みについては、社会貢献活動が主な報告となっていました。CSRの中核的な主題として人権や労働環境に対する

取り組みがあり、特に海外において大きな関心事となっています。海外事業所における社会貢献活動以外への報告内容の拡大や、残業時間や女性従業員の構成比率及び管理職の女性比率といった、社会面におけるパフォーマンスデータの情報収集及び開示について、今後に期待いたします。

トップメッセージでは、「新興市場のインフラ需要の補足」、「環境負荷低減」、「行動規範の制定」などについて言及しています。それを受け、「営業再編」、「環境への取り組み」「CSR基本姿勢」などが報告されていました。「営業再編」のように特集記事による具体的な報告もありますが、「行動規範の制定」については具体的な内容を知ることができませんでした。トップメッセージは、貴社が最も伝えたい取り組みについて触れているのだと思います。また、ステークホルダーにとってもトップメッセージで言及された内容には関心を寄せます。トップメッセージと関連付けたCSR活動の具体的な報告を期待いたします。

今回は第三者意見であり、報告されている内容が採用された経緯や記載された数値及びその報告内容の正確性については、はかり知ることができませんでした。CSRを取り巻く状況として、ISO26000のガイドラインとしての採用、アニュアルレポートとの統合報告等の動きもあり、CSR活動における報告内容の正確性は重要度を増しています。報告書作成プロセスを含めた、報告書に対する第三者の視点の導入を期待いたします。

※このコメントは、本書が一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

## 第三者意見を受けて

日立電線株式会社 CSR推進室長 木暮 正一

CSR報告書2012の発行に際し、貴重なご意見、ご提案を頂きましたこと、誠にありがとうございました。当社グループは中期経営計画「リニューアル・プラン “BRIDGE”」を推進中ですが、その中で「真のグローバル企業への変革」を遂げることをめざしています。そのためには、さまざまなステークホルダーの求めるニーズに対し、CSRの視点からも、しっかりと応えていく必要があると考えています。ステークホルダーの方々にお伝えすべきことは何なのかを深く考え、よりわかりやすく、かつ、透明性を高めていくために、本報告書の改善を図っていきたく思います。また、当社の企業活動を総合的にご理解いただくという観点から、CSR報告書とアニュアルレポートを統合レポートとすることを検討しております。今回のご意見、ご提案に加え、ステークホルダーの皆様からのご意見やご指摘に耳を傾け、よりよい報告書、そして、よりよいCSR活動を実現すべく取り組んでまいりたいと思います。